



# WDRAC Annual Report

2025.12.25

一般社団法人戦災復興支援センター第4期 年次報告書 (2024年10月-2025年9月)

# INDEX

## 目次

---

1. 代表理事の挨拶
2. WDRACのマニフェスト
3. 第3期の歩み
4. WDRACの活動内容
5. WDRACの特徴
6. アンサングヒーローたちの活動内容ご紹介
7. 寄付について(実績)
8. 事業振り返り
9. 会計報告書
10. 第4期目に向けて
11. 組織概要
12. 寄付者からのメッセージ
13. お問い合わせ

# Greetings from the Representative Director

代表理事の挨拶

## 続けることに、意味を込めて。

日頃よりWDRACの活動を支えてくださり、心より感謝申し上げます。皆様のご寄付、そしてボランティアとして関わってくださる一人ひとりの力によって、私たちはこの一年も活動を継続することができました。

2024年10月から2025年9月にかけて、ウクライナでの戦争は長期化し、パレスチナ、シリアを含む中東地域でも深刻な人道危機が続いている。時間が経つにつれ、関心は移ろいやすくなっていますが、現地で暮らす人々の生活は止まりません。支援を続ける人たちは、派手のない日常の中で、疲労や葛藤を抱えながらも現場に立ち続けています。

私たちWDRACは、この一年を通して改めて「支援を支える」という役割の難しさと必要性を実感しました。遠く離れた場所で起きている出来事に対し、直接手を差し伸べることは容易ではありません。しかし、託された思いを確かに届けること、忘れずに関わり続けることはできます。その積み重ねが、現地で活動するアンサンブルヒーローたちの持続力につながってきました。

この活動は、寄付者の皆様の意思と、時間を割いて関わるボランティアの行動によって成り立っています。どちらが欠けても成立しません。そのことを、私たちは決して当たり前だとは考えていません。

これからもWDRACは、状況の変化に目を凝らし、現場との対話を重ねながら、無理のないかたちで支援を続けていきます。皆様と共に、希望が細くとも途切れないと、その灯を守り続けていきたいと願っています。今後とも、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、お願ひ申し上げます。



一般社団法人 戦災復興支援センター  
(WDRAC)

代表理事 長尾 彰

# Manifest

WDRACのマニフェスト

## We support those who support.



「支援する人たちを支援すること」が私たちの目的です

彼らは、大きな組織に属さず個人として行動し、草の根のネットワークやコミュニティと連携しながら支援活動を展開しています。そして、豊かな資金や豊富な人材を抱えるわけではなく、現場での作業に忙殺されていて、「これをしてもらったら助かるのに」「お金があれば解決できるのに」「一体これからどうなってしまうんだろう」という不安を感じています。

しかし、彼らと同じようにひとりの市民として支援の後押しをしながらどうでしょう？「支援する人たちを支援する」ことを通じて、苦しみ傷つき困難の最中にいる人たちの助けになることができるとしたら？国・言語・文化・慣習・信仰を越えて、お互いに助け合い支え合うネットワークを世界中に広げられるとしたら、どんな世界を創り出すことができるでしょうか？

「自分には何もできることがない」と諦めたり、傷ついた人がいることをわかっているながら対岸の火事として横目で見るのではなく、「自分にもできることがある」と行動し、同じような気持ちでいる仲間たちと連帯することで、武力や暴力によって傷つけられたこの世界の調和とバランスを取り戻すことができます。

私たちが他と異なるのは、個人の意思が尊重されるフラットでオープンな組織で、少しづつ力を持ち寄り、支援活動をする人たちのニーズに応じた活動をするところです。そして、また、特定の国家・思想・信仰に偏らず、何事にも柔軟に対応し、試行錯誤を歓迎し、常にユーモアと明るさを忘れません。

私たちは、どんな理由があれ、尊厳を奪われてはならず、武力と暴力ではなく対話を通じて問題を解決していかなければならないこと、また、ひとりの小さな力も連帯を通じて大きなエネルギーや希望を生み出すことを信じています。

そして、これらを通じて、私たちは Change everything with love (愛ですべてを変えること) を約束します。

# History

## 4期のWDRACとアンサングヒーローたちの歩み

2024年10月1日  
第4期スタート

- 10月30日  
ウクライナで子供たちのスポーツ活動を支援するイワン氏へ支援金(約23万円)送金  
ウクライナ・ドネツク州のサッカーチームで活動する子供たちの大会遠征費、ユニフォーム代等を支援
- 12月14日  
第3期総会および定時社員総会の実施
- 2月15日  
長野県南牧村で開催のチャリティイベントにゲスト参加
- 3月15日  
ABW支援のクラウドファンディング実施  
戦争の影響で地域の消防設備が不十分であるウクライナに、消防車を送るための支援を募るプロジェクトとして実施。

- 4月23日  
ABW、ウクライナのオデッサに消防車を2台納品
- 5月22日  
イワン氏へスポーツチームに係る支援金(約53万円)を送付  
イワン氏が運営する、ウクライナの子供たちのスポーツチームが出場するサッカー大会に係る資金を支援
- 6月3日  
ABWへクラウドファンディングで集まった支援金(約317万円)を送金
- 8月21日  
ABW、追加で新たに2台の消防車をウクライナに支援し、納品  
3-4月に実施したクラウドファンディングにおいて予定よりも多くの支援が集まったため追加で消防車を寄贈

# Activities

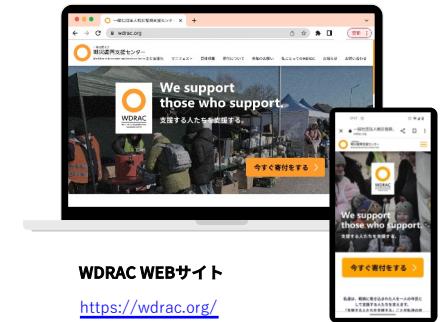
## WDRACの活動内容

01

### 寄付事業

支援対象者の顔と実態が分かる活動への金銭的支援活動を実施。  
また、そのための募金活動を日本国内にて実施。

- ・寄付受付のハブとして、WDRACのホームページを公開。その中で、個人からのスポット寄付の他、マンスリー寄付、クラウドファンディング寄付などを実施
- ・各所にて、WDRACのポスター・パンフレットの配布を実施
- ・チャリティコンサート、商品販売連動型寄付など、多様な募金方法を実施



WDRAC WEBサイト  
<https://wdrac.org/>

02

### 普及啓発事業

戦災復興支援に向けての公益活動を推進・啓蒙し、関心やボランティア精神の涵養を図っていく活動。

- ・WDRACのホームページから、情報発信や寄付受付けのハブとしていく
- ・SNSやポスター等による活動の周知
- ・イベントやセミナーの開催
- ・その他PR活動(NHK「おはよう日本」などで紹介されました)



記憶のダイアリー～あの日あの頃  
第40回～第43回  
<https://www.youtube.com/watch?v=ngLbq066CxE>



“支援者を支援する”日本にいてウクライナにできることとは  
<https://www.nhk.jp/o/hayah/1s/QLP4RZ8ZY3/blog/bl/pzvl7wDPqn/bp/pa7ew4vXRp/>

# Our Features

## WDRACの特徴

01

### 顔の見える支援先。密なコミュニケーション

私たちWDRACの支援先の人々は、大きな組織には属さず、個人で、草の根のネットワークやコミュニティと連携しながら支援活動をしています。私たちは、そんな彼らを「unsung hero(アンサングヒーロー、名もなき英雄)」と呼び、支えます。必要なときに必要な人に必要な物が効果的に届けられるように、彼らと日常的な情報共有の機会を持ち、現地でどのような対象に対しどんな支援をするか、どれくらいのコストがかかるのかを共有した上で、寄付金を決定・送金しています。

02

### 寄付はほぼ100%を現地に回す

WDRACは、学生、会社員、広報、デザイナー、教員、経営者、アスリート、アーティスト、税理士など多種多様なバックグラウンドを持つメンバーの活動によって支えられています。それぞれの専門性を活かし、仕事や学業の合間の時間を少しずつ持ち寄ること、またチーム単位での作業と連携をすることで効率の良い活動を実現することができます。日常の活動はすべてがオンライン上でのやりとりで進めることで、無理のない活動参加を可能にし、また、低い運営費とすることができます。

03

### 現地の経済も回し、自立も支援する

WDRACは日本で物品を購入して現地に送ることは殆どしません。現地で活動するアンサングヒーロー達に金銭的な支援を行います。彼らは、そのお金で支援物資を購入するなどの活動を行います。そのため、現地経済にお金が循環することになり、支援に使用した金額はほぼ100%現地復興に回っていくことになります。そして、自立支援へとつなげていきます。

# Unsung Heroes

## アンサングヒーローとは

アンサングヒーローとは、国家や大規模組織の前面に立つことなく、地域に根差した信頼関係を基盤に、日々の支援を積み重ねている現地の担い手です。

彼らは資金や人材が潤沢とは言えない環境の中で、避難民、子ども、高齢者、障害者といった最も脆弱な人々に寄り添い続けています。WDRACは、こうした名もなき実践者を支援することで、支援の実効性と持続性を高めてきました。

ウクライナ戦争をめぐっては、2022年の侵攻開始以降、市民による支援活動が急増しました。

ウクライナ司法省の公開データによれば、侵攻初期の数か月間で4,000を超える市民団体・慈善団体が新たに登録されています。

その後も国連人道問題調整事務所(OCHA)の人道対応計画に参加する団体数は増加し、2023年には500団体超、2024年には600団体を超える規模で人道支援が実施されました。2025年計画では、その約7割を現地団体が占めており、支援の担い手が国際機関から地域主体へと重心を移していることが読み取れます。

このような状況下で、日本から現地の支援者を支えることの価値は極めて明確です。

距離や言語の壁を越え、資金と信頼を継続的に届けることで、現地の活動は途切れずに回り続けます。

支援を受ける人だけでなく、支援を続ける人を支えること。その積み重ねこそが、長期化する紛争下において希望を現実につなぎ留める力となっています。

### 【引用・参照元】

- ・ウクライナ司法省 公開NGO登録データ  
<https://minjust.gov.ua>
- ・UN OCHA Ukraine Humanitarian Response Plan  
<https://www.unocha.org/ukraine>
- ・UN OCHA Financial Tracking Service（ウクライナ人道支援）  
<https://fts.unocha.org/countries/230/summary>
- ・OECD "Civil society and humanitarian response in Ukraine"  
<https://www.oecd.org/ukraine>

# Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介



Simon Massey

サイモン・マッシーさん

今期の支援金額合計

3,187,9787 円

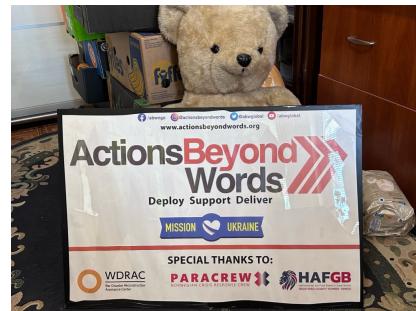
現場に立ち続ける覚悟が、支援の質を決める。

Simon Massey氏は、その姿勢を行動で示し続けている人道支援者です。

イギリス出身のサイモン氏は、ウクライナ侵攻直後にポーランド国境へ向かい、避難民支援と物資輸送を個人として開始しました。支援の必要性が拡大する中で、Actions Beyond Wordsを立ち上げ、現地と欧州各地を結ぶ実働の拠点を担うようになります。彼の活動の特徴は、計画や理念よりも現場を優先する点にあります。何が不足しているのか、どこで支援が滞っているのかを自ら確認し、判断と行動を積み重ねてきました。

サイモン氏が特に力を注いできたのが、消防車の調達とウクライナへの提供です。戦時下では火災対応や空爆後の救助が日常的に発生し、装備の不足は人命に直結します。彼はイギリス国内の消防局や支援団体と連携し、退役消防車を整備し輸送する仕組みを構築しました。

WDRACは第4期において、この活動に日本から資金面で関わってきました。託された寄付は、サイモン氏の現場判断のもとで最も効果的な形に変換され、確実に届けられています。声高に語らず、止めてはいけない支援を止めない。その実践こそが、彼がアンサングヒーローと呼ばれる理由です。



WDRACの寄付は彼らの手によって確実に現地に届けられています



効率的にウクライナ国内を周り、避難所までの「ラストワンマイル」を彼らが担っています



特に生鮮食品の物流は滞っているため、ウクライナ国内の避難所でも野菜のニーズは以前増えています

# Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介

現場に立ち続ける覚悟が、支援の質を決める。

今期、Simon Masseyさんは消防車をウクライナへ送る活動の最前線に立ち続けました。

ロシアによる侵攻が長期化する中、ウクライナ各地では空爆や砲撃による火災が日常的に発生しています。一方で、消防署や車両そのものが被害を受け、多くの地域で初動対応能力が著しく低下しています。こうした状況に対し、サイモン氏は2025年も、イギリス国内で退役した消防車を調達し、整備・輸送を経てウクライナに届ける活動を継続しました。

この取り組みは、単に車両を送る支援ではありません。消防局や自治体、支援団体との調整、車両の状態確認や必要な改修、国境を越える輸送手配、受け入れ先となるウクライナ側消防組織との連絡調整など、多くの実務が積み重なって初めて成立します。2025年も、サイモン氏は現地のニーズを確認しながら、どの地域に、どの仕様の車両が必要かを判断し、限られた資源を最も効果的に配分してきました。

WDRACはこの活動に対して日本から資金面での支援を行いました。寄付によって支えられた資金は、消防車の購入費、整備費、輸送関連費用などに充てられ、現地で即戦力として稼働する形で活用されています。資金の使途が明確であり、現場判断が尊重されている点は、本支援の大きな特徴です。

消防車は、火災を消すだけでなく、人命救助や地域の安心を支える基盤です。その基盤を一台ずつ回復させていくサイモン氏の活動は、派手さはなくとも、確実に命を守る力となっています。2025年もまた、この「止めてはいけない支援」を止めない一年となりました。



イギリスからウクライナに消防車を送るプロジェクトは、現在も継続しています



消防車の寄贈のみならず、イギリスとウクライナの消防士たちが共同訓練を実施しました



今期は2台の消防車をウクライナ南部の消防署に贈ることができました



「消防車を贈る」という取り組みは、イギリスとウクライナのコミュニティ同士の結束も生み出しました

# Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介



Ivan Koromyslo

イワン・コロミソさん

今期の支援金額合計

1,753,692 円

戦時下においても、子どもたちの「日常」を途切れさせない。

イワン・コロミソさんは、そのために静かに動き続けているウクライナの市民支援者です。

イワンさんは、ウクライナ東部ドネツク州を拠点に、地域スポーツリーグの運営を担ってきました。ロシアによる侵攻以降、多くのスポーツ施設が使用不能となり、移動や安全の確保も困難になる中で、子どもや若者が定期的に集い、体を動かす場は急速に失われていきました。彼の活動は、スポーツを通じて希望を語ることではなく、週に一度でも「いつもの時間」「いつもの仲間」と再会できる生活のリズムを守ることにあります。

リーグ運営は、試合や練習の調整、移動手段の確保、最低限の用具の手配、安全情報の確認など、地味で実務的な作業の積み重ねです。空襲警報やインフラ停止が日常となった状況下で、それらを継続すること自体が容易ではありません。それでもイワンさんは、地域のコーチや保護者と連携しながら、可能な形を探り続けてきました。

WDRACは第4期において、イワンのこうした活動に対し、日本から資金面で支援を行ってきました。移動費や運営費といった基礎的な支えがあることで、現地の判断と努力が具体的な行動へとつながっています。武力ではなく、日常を取り戻すために動く。その実践こそが、イワン・コロミソ氏がアンサングヒーローと呼ばれる理由です。



スポーツを通じたコミュニティづくりに取り組むイワンさん。前線に近い街で暮らしています



スポーツのみならず、支援物資の配給などを率先して実施しながら、子どもたちのケアに奔走しています



子どものみならず、若者を対象にしたスポーツの機会を提供し続けています

# Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介

## 子どもたちの生活のリズムを守り続ける。

イワン・コロミソさんは、ウクライナ東部ドネツク州を中心に、地域スポーツリーグの運営にチャレンジし続けています。

ロシアによる侵攻が長期化する中、学校や公共施設の閉鎖、移動制限、空襲警報の常態化により、子どもや若者が定期的に体を動かし、仲間と関わる機会は大きく制限されています。

イワン氏の活動は、こうした状況下でも可能な形を探しながら、サッカーを中心とした小規模なリーグ戦や合同練習を維持することにあります。大会の開催そのものよりも、「決まった曜日に集まれる場」を失わないことが重視されています。

2025年も、リーグ運営には多くの調整が必要でした。練習や試合の直前まで安全状況を確認し、移動手段や集合場所を柔軟に変更することは日常的な作業です。また、移動費や施設利用料、最低限の用具の確保といった運営コストも、地域の負担だけでは賄いきれない状況が続いています。それでもイワン氏は、地域のコーチや保護者と連携しながら、活動を止めない選択を重ねてきました。

WDRACは今期、イワン氏の活動に対して日本から資金面での支援を行いました。

寄付による支えは、移動費や運営費として活用され、現地の判断を具体的な行動につなげる下支えとなっています。武力ではなく、日常を取り戻すために続けられる実践。2025年のイワン氏の活動は、地域の未来を支えています。



季節に一度、爆撃が比較的少なく避難がすぐできる場所で、サッカーやフットサルの大会を開催しています



これらの大会は、戦時下にある子どもたちの貴重なリフレッシュの機会です



大会への国や自治体のサポートは後回しにされているので、サッカーコートの整備も自分たちでします



サッカーのみならず、遠征の際には「社会科見学」も実施。子どもたちの健全育成に寄与しています

# About Donations

寄付について（実績）

皆さまからお預かりした寄付金額の合計は、

**5,064,415 円**

暖かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。  
お預かりしたお金は、アンサングヒーローたちを通じ、必要な支援に充てられました。

※ 集計期間 | 2024年10月1日から2025年9月30日

※ 通常の寄付は、送金手数料控除後、7%を限度としてWDRACの運営費用に充てております。

## ● クラウドファンディング実績

サイモン (ABW)  
03月15日～04月15日

**253名**  
**3,171,612 円**

## ● 後援イベント実績

南牧村チャリティイベント  
06月18日開催  
参加者数 / 30名（赤字部分は不明）

※ 合計金額には、2025年3月に実施したサイモンクラウドファンディングの入金額を含みます

# Project Review

事業振り返り 1/2

## 01 運営体制について

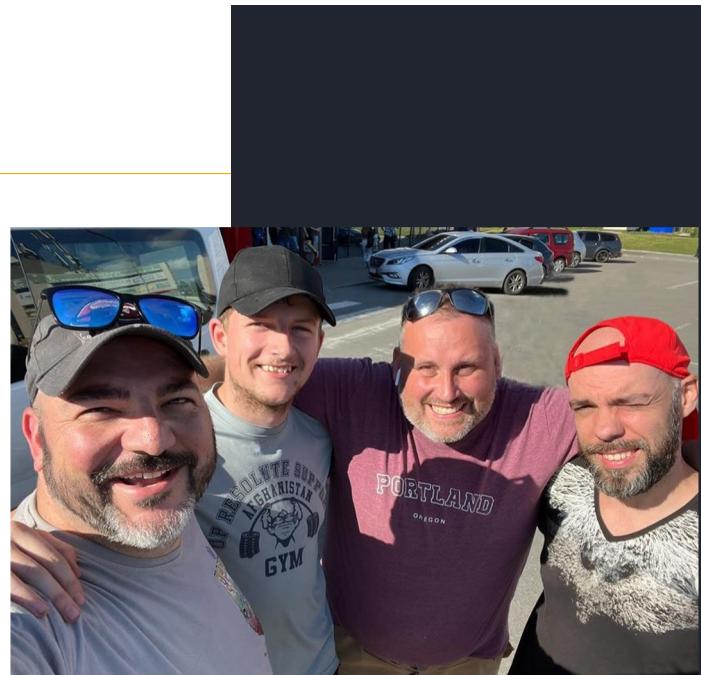
運営・IT・広報・会計・情報収集などのチームに分かれて活動。適時開催のチームミーティングや、隔週開催のオンライン全体定例会(参加任意)を実施。活動の9割以上はオンライン上で行われています。

活動当初から合議制での意思決定を重視し、透明性・公益性を図るとともに、寄付を有効に使えるよう、運営コストを極めて低くした組織運営を心がけています。

## 02 アンサングヒーローとのコミュニケーションについて

現地で活動するアンサングヒーローとは、日常的に情報共有の機会を持ち、現地でどのような対象に対しどんな支援をするか、活動にどれくらいの費用がかかるかを討議した上で、寄付金を送金しています。2024年には、より広いネットワークを目指し、アンサングヒーロー基金を立ち上げ、ベルリンにも支援の輪を広げました。

いずれも「善意の押しつけ」にならないよう、必要なときに必要な人に必要な物が効果的に届けられるように、現地のニーズを汲み取った上でサポートしています。



# Project Review

事業振り返り 2/2

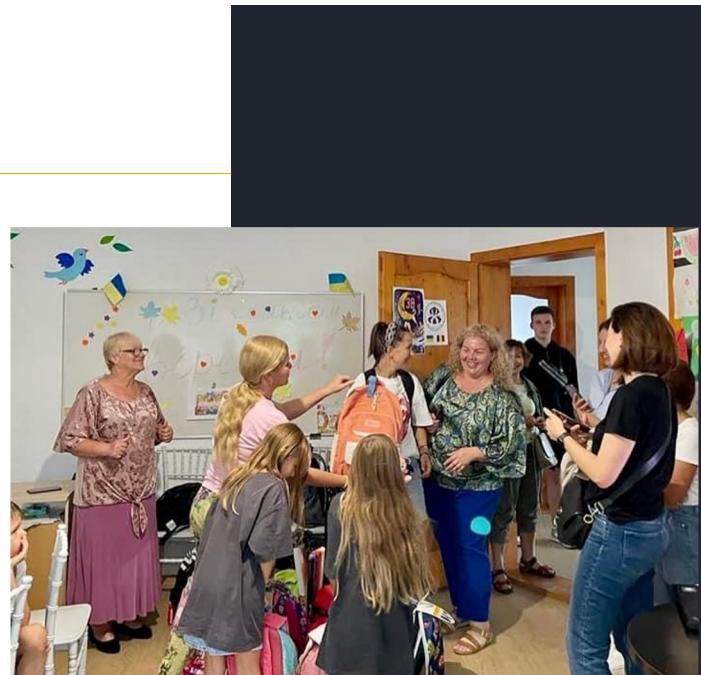
## 03 募金活動について

ウクライナの復興支援はまだまだ途上ですが、他地域でも支援のニーズは高まっていくと考えており、マンスリー会員募集や、クラウドファンディング告知徹底、及び法人寄付をはじめとする寄付基盤を向上させていく必要があります。

3期目は、佐賀県唐津市へ移転しました。今後、ふるさと納税の活用や、法人営業の仕組み構築などを推進していきます。

## 04 ボランティアについて

日々の活動にはおよそ20名ほどが活動に参加しています。学生、会社員、教員、経営者、アスリート、アーティスト、税理士など多種多様なバックグラウンドを持つメンバーがWDRACの活動を支えています。それぞれの専門性を活かし、仕事や学業の合間の時間を少しづつ持ち寄ること、またチーム単位での作業と連携することで効率の良い活動を実現しています。また、各自が無理のない範囲で参画することを、お互いに許容し、すべての日常の活動をすべてがオンライン上で進めることで、無理のない活動参加を可能にしています。



# Financial Report

会計報告書 1/2

## 令和6年度 決算サマリー (令和6年10月1日～令和7年9月30日)

収入 5,070 千円

### 【収入】

一般正味財産の部と、指定正味財産の部の受取寄付金の合計額となります。

寄付金 5,065 千円

受取利息 5 千円

支出 5,396 千円

### 【支出】

全支出のうち、92%がアンサングヒーロー達への活動支援金となりました。

- ✓ 活動支援金: 2名のアンサングヒーローたちに、計4,941千円の支援金をとどけることができました。
- ✓ 地代家賃: 今後の活動のため、本店を佐賀県に移転し、シェアオフィスで一席分を借りています。

活動支援金 4,941 千円

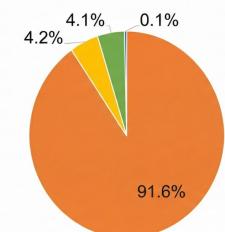
地代家賃 224 千円

支払手数料 221 千円

備品・消耗品費 8 千円

### 支出内訳

- 活動支援金
- 支払手数料
- 地代家賃
- 備品・消耗品費



収支差額 ▲326 千円

### 【収支差額】

ウクライナでの紛争が始まってから、2年が経過し、関心が薄れるにつれ、寄付も集まりづらくなっています。収入の規模にあわせて、無理のない支援を今期も行い、ほぼイーブンでの着地となっています。

# Financial Report

会計報告書 2/2

## 貸借対照表

令和07年09月30日 現在

一般社団法人 戦災復興支援センター

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	3,447,480	【流動負債】	68,987
現金及び預金	3,447,480	未払金	68,987
		負債の部合計	68,987
		純資産の部	
		科目	金額
		【株主資本】	3,378,493
		利益剰余金	3,378,493
		その他利益剰余金	3,378,493
		繰越利益剰余金	3,378,493
		(うち当期純損失)	△ 326,353
		純資産の部合計	3,378,493
資産の部合計	3,447,480	負債・純資産の部合計	3,447,480

(単位：円)

## 損益計算書

自 令和06年10月01日  
至 令和07年09月30日

一般社団法人 戦災復興支援センター

(単位：円)

科目	金額
【売上高】	
寄付収入	5,064,415
【売上原価】	
売上総利益	5,064,415
【販売費及び一般管理費】	
営業損失	5,396,204
△ 331,789	
【営業外収益】	
受取利息	5,436
【営業外費用】	
経常損失	△ 326,353
【特別利益】	
【特別損失】	
税引前当期純損失	△ 326,353
当期純損失	△ 326,353

## 販売費及び一般管理費内訳書

自 令和06年10月01日  
至 令和07年09月30日

一般社団法人 戦災復興支援センター

(単位：円)

科目	金額
【販売費及び一般管理費】	
支援金	4,941,679
備品・消耗品費	8,470
地代家賃	224,400
租税公課	829
支払手数料	220,826
販売費及び一般管理費合計	5,396,204

# Thoughts for The 5th Phase

第五期目に向けて

## 基本方針

本年度は、次の3点を強化・推進します。

- 1.寄付事業、特に団体・法人とのネットワークの強化
- 2.戦災復興支援に向けての公益活動を推進・啓蒙
- 3.アンサングヒーローとのネットワーク構築

男が浜辺を歩いていると、打ち上げられたヒトデを海に投げ入れている少年がいた。

ヒトデは浜辺を埋め尽くすほどの数だった。

男は少年にこう尋ねた。

「1つずつ投げても、何も変わらないのではないかね？」

すると少年はヒトデを手に取り、こう答えた。

「こいつにとては大きな変化さ」

Photo: © 2013 UNICEF/UN013013/Leah Isom. All rights reserved. UNICEF does not necessarily imply endorsement of any individual or organization or products by naming or linking to this site.

支援する人たちを支援する。

WDRAC

17

# Thoughts for The Third Phase

第五期目に向けて

## 1.寄付事業

災害被災者を着実に支援するために、被災地現地において実際に支援活動を行う者（以下「支援者」）を支援します。また、そのための募金活動を行います。  
本年度も個人向け募金活動を継続しつつ、法人向けの構築・強化を進めます。

### ・個人向けに広く寄付や協賛を募る活動

- ・個人向けのマンスリー寄付、クラウドファンディング寄付、ポスター・パンフレットの配布
- ・その他、コンサート等との連携など、募金の仕方の多様化を継続実施

### ・(今期重点活動)企業・団体向けに寄付や協賛を募る活動

- ・企業・団体向けの募金活動などを設計し、活動を開始していく

### ・(今期重点活動)寄付者向けのコミュニケーション

- ・寄付活動や被災者・支援者への関心が継続していくように、寄付者へのコミュニケーションを設計・実施（報告メール、アニュアルレポート、満足度調査、等）
- ・当センター関与者及び寄付者の意識・行動変容に資する活動・コミュニケーション施策の検討・設計

### ・支援対象者の顔と実態が分かる活動への金銭的支援活動

- ・本年度の支援も、金銭的な支援及び精神的なサポートを中心とする。
- ・被災者に一番近い支援者に直接金銭を届けることで、中間コストを最低限にする仕組みを構築し、ノウハウを蓄積していく。

支援する人たちを支援する。

男が浜辺を歩いていると、打ち上げられたヒトデを海に投げ入れている少年がいた。  
ヒトデは浜辺を埋め尽くすほどの数だった。  
男は少年にこう尋ねた。  
「1つずつ投げても、何も変わらないのではないかね？」  
すると少年はヒトデを手に取り、こう答えた。  
「こいつにとては大きな変化さ」

WDRAC  
WDRAC

# Thoughts for The Third Phase

第五期目に向けて

## 2.普及啓発事業

一般市民による戦災復興支援に向けての公益活動を推進・啓蒙し、一般市民や団体の戦災復興や人道支援への関心やボランティア精神の涵養を促します。

- ・インターネットやイベント等による情報提供の活動
  - ・当センターのホームページ(HP)を公開し、情報発信や寄付受付けのハブとしていく
  - ・イベント等による直接的な情報発信を継続してしていく
- ・人道支援活動に関する勉強会やセミナーを開催する活動
  - ・被災地からの復興情報共有会や、当センターメンバーや有識者によるセミナーを行っていく
- ・国内外における人道支援団体と連携する活動
  - ・被災地支援を円滑かつ効果的に行うため、国内外の非営利組織との連携を行っていく

支援する人たちを支援する。

男が浜辺を歩いていると、打ち上げられたヒトデを海に投げ入れている少年がいた。

ヒトデは浜辺を埋め尽くすほどの数だった。

男は少年にこう尋ねた。

「1つずつ投げていても、何も変わらないのではないかね？」

すると少年はヒトデを手に取り、こう答えた。

「こいつにとっては大きな変化さ」

Photo: Getty Images (2)

WDRAC  
World Disaster Relief & Development Center

支援する人たちを支援する。

# Thoughts for The Third Phase

第五期目に向けて

## 3. 戦災復興支援に携わる小規模市民ボランティア団体とのネットワークづくり

第5期目においてWDRACは、「アンサングヒーローとのネットワーク構築」を重要な柱の一つとして位置づけます。戦争や紛争が長期化する中で、現地では個人や小規模な団体が、制度や支援の隙間を埋める形で活動を続けています。こうした支援者たちは、地域の実情に最も近い場所で判断し、行動していますが、同時に資金面や情報面で孤立しやすい存在でもあります。

WDRACはこれまで、特定の支援先と丁寧に関係を築くことで、支援の確実性と持続性を高めてきました。第5期目ではその経験を踏まえ、地域や分野を越えてアンサングヒーロー同士が緩やかにつながるネットワークづくりを進めていきます。支援の知見や課題を共有し、相互に補完し合える関係を育むことで、個々の活動が単発に終わらず、より安定した支援へつながることを目指します。人を増やすことではなく、関係を深めること。その積み重ねが、困難な状況下でも支援を続ける力になると考えています。

- ・国内外での戦災復興支援に携わる現地団体への情報収集
- ・国内外で戦災復興に携わるアンサングヒーローとの関係づくりの推進

支援する人たちを支援する。

男が浜辺を歩いていると、打ち上げられたヒトデを海に投げ入れている少年がいた。

ヒトデは浜辺を埋め尽くすほどの数だった。

男は少年にこう尋ねた。

「1つずつ投げても、何も変わらないのではないかね？」

すると少年はヒトデを手に取り、こう答えた。

「こいつにとては大きな変化さ」

Lois Bailey, Flickr, CC BY-NC-ND 2.0



支援する人たちを支援する。

WDRAC  
World Disaster Relief & Development

20

# Organization

## 組織概要

代表理事

長尾 彰

理事

向谷 一

松本 潤二

山口 明香

監事

星 聰

アドバイザー

鈴木 寛(東京大学、慶應義塾大学教授)

# Messages from donated members

寄付者からのメッセージ

## アンサングヒーローに想いを託してくださったメンバーからのメッセージ



藤森 隆さん  
長野県  
会社経営者

経営者としてメンバー一人一人が関心  
を持ち続けられる支援をしていく

経営するジュエリーの会社で、お客様に1点ジュエリーをお届けする度に、100円を寄付するという社内PJを4月に始めて、これまでに3,000件30万円以上をヒーローたちに託すことが出来ました。僕を含め、会社のメンバー一人一人がウクライナや周辺の国々で、日常が戻ることを祈り耐える人々、それをわが身を顧みず助けようと活躍するヒーローたちに、毎月少しでも心の片隅で思いを寄せられる機会になるように、支援を続けていきます。



小島 有加里さん  
神奈川県  
洋菓子店オーナー

少しの気持ちの届く先は…

「寄付をする」ってちょっと恥ずかしくて  
気おくれすることがありますよね。私もそん  
な一人です。コンビニの募金箱に入れるのも  
躊躇したりでも、うちのお店(洋菓子店)の  
ワドラックの募金箱に寄付してくれる方は  
本当にさりげなく、少しだすけどって、  
その少しの気持ちが集まって集まって  
アンサングヒーローへの大きな支援になること  
実感しています。

# CONTACT US

お問い合わせ

活動内容や寄付の状況などについて、様々なメディアで発信しております。



一般社団法人  
戦災復興支援センター  
(@WDRAC.official)

<https://www.facebook.com/WDRAC.official/>



WDRAC  
戦災復興支援センター  
(@wdrac)

<https://www.youtube.com/@wdrac>



WDRAC  
戦災復興支援センター  
(@wdrac2022)

<https://www.instagram.com/wdrac2022/>



WDRAC  
オフィシャルアカウント  
(@WDRAC\_official)

[https://twitter.com/WDRAC\\_official](https://twitter.com/WDRAC_official)

メールでのお問い合わせをご希望の方は、HPにございます、プライバシーポリシーをご確認の上、お問合せページよりご連絡くださいませ。

メールのご返信には、数日間お時間を頂戴する場合がございます。あらかじめご了承ください。

<https://wdrac.org/contact/>



# THANK YOU



<https://wdrac.org/>

寄付はこちらから

WDRACのホームページから簡単にできます。

